



- ・試験研究機関研修生受入要領に基づき、県内企業の技術者を対象にセラミックス関連技術を指導する。
- ・セラミックスに関する総合的な技術指導により、新製品開発や製品の高品質化・高付加価値化等への企業の積極的な取組みに寄与する。

### 3) 県負担・補助率の考え方

#### (4) 類似事業の有無

無

### 3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額    | 事業内容の詳細               |
|------|-------|-----------------------|
| 旅費   | 20    | 技術指導業務旅費              |
| 需用費  | 5,547 | 依頼試験用消耗品、試験用機器電気代、修繕費 |
| 役務費  | 124   | 納入通知書郵送費、試験機器校正手数料    |
| 合計   | 5,691 |                       |

#### 決定額の考え方

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

記入しない項目欄は斜線を引いてください。

- |  |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業            |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 業界における製品開発等に伴う各種依頼試験や機器開放利用などに迅速に対応し、新製品開発や新技術に関する情報の収集及び的確な技術指導を通して中小企業の技術向上を支援する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前<br>(R) | R2年度<br>実績 | R3年度<br>目標 | R4年度<br>目標 | 終期目標<br>(R) | 達成率 |
|-----|--------------|------------|------------|------------|-------------|-----|
| ①   | /            | /          | /          | /          | /           | %   |
| ②   | /            | /          | /          | /          | /           | %   |

### ○指標を設定することができない場合の理由

・地域企業等が必要に応じて来所し、試験を依頼し又は開放試験室設置機器を利用していくものであり、目標を設定して当所から利用を働き掛けていくものではないため。

### （これまでの取組内容と成果）

|       |   |
|-------|---|
| 令和2年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼試験を2,885件受付け、迅速に試験を行い結果を通知した。</li> <li>・開放試験室設置機器利用の受付けを182件行い、適正な指導のもとに利用してもらった。</li> <li>・所において、また企業を訪問して技術相談及び指導を866件行った。</li> </ul> |
| 令和3年度 | 令和5年度当初予算にて追加   |
| 令和4年度 | 令和6年度当初予算にて追加   |

指標① 目標：\_\_\_ 実績：\_\_\_ 達成率：\_\_\_%

指標① 目標：\_\_\_ 実績：\_\_\_ 達成率：\_\_\_%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

|  |  |
|--|--|
| <p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断）<br/>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>  |  |
| <p>(評価)<br/>2</p>  | <p>本県の産業構造は、製造業の割合が県内総生産額の約4分の1を占め、全国的にも製造業の割合が高い。また、製造業のうち、約99%を中小企業が占めている。中小企業では高価な機器を設置したり、多くの研究者を雇用することは難しく、安価に試験又は機器を利用でき、専門家である当所研究員が無料で相談を受けることで、企業がより効率的な研究開発を行うことができる当該事業は極めて必要性が高い。実際に、企業を訪問し意見等を伺う「企業ニーズ調査」において、当所において最新機器を設置し、安価で利用でき、相談を受ける当該事業への要望は多い。</p> |
| <p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）<br/>3：期待以上の成果あり<br/>2：期待どおりの成果あり<br/>1：期待どおりの成果が得られていない<br/>0：ほとんど成果が得られていない</p> |  |
| <p>(評価)<br/>2</p>  | <p>令和2年度においては、依頼試験件数：2,885件、開放試験室設置機器利用件数：182件、技術相談件数：866件と、多数の利用があった。</p>   |
| <p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）<br/>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>  |  |
| <p>(評価)<br/>2</p>  | <p>機器の効率的な運用に努め、依頼試験及び開放試験室設置機器の利用を受け付けている。</p>  |

### (今後の課題)

|   |
|---|
| <p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>中小企業の試験研究機関に対する技術支援のニーズは定常的にあり、予算削減を理由に断ることができない。</p> <p>また、機器の老朽化に伴い近年故障が頻発しており予算不足が続いている。</p> |
|---|

### (次年度の方向性)

|   |
|---|
| <p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>当該事業に対して非常に高い期待が向けられており、継続して取り組む必要がある。</p> |
|---|